

# 平成24年度の決算と町の貯金

## 町の貯金「積立金」

あなたはなぜ貯金をしますか？家や車を買うため、子どもの教育資金のため、老後の生活に備えるため、など答えは様々でしょう。また、具体的な使い道は決めていないが、将来何が起ころうとも困らないように貯金しておく、という人も多いでしょう。貯金とは、現在手元にある資金を、消費せずに将来に移すことです。もちろん、家計に余裕がないと貯金できませんが、「右肩下がり」といわれる社会経済下においては、将来どれくらい収入があるか、どのような支出が生じるか不確実ですので、それらに備えることは大切なことです。

桂川町の積立金 (平成 24 年度末現在)

積立基金名	金額
財政調整基金	6 億 7,821 万円
減債基金	548 万円
その他の特定目的基金	14 億 4,808 万円

\* 『減債基金』とは、公債費の償還（借金の返済）を円滑に実施するために資金を積み立てるものです。  
 \* 『その他の特定目的基金』には、各種施設の更新や維持管理、事業の推進等を目的とした 10 基金の合計額を計上しています。

## 貯金そのものが目的ではありません

町も将来のために、それぞれの目的に応じた貯金（積立金）をしており、平成24年度末現在で21億3077万円になりました。この内訳は左上表のとおりです。

このうち、『財政調整基金』は、町における年度間の財源の不均衡を調整するための貯金です。地方自治体の財政は、経済の不況等により大幅な税収減に見舞われたり、災害の発生等により思わぬ支出の増加を余儀なくされたりするものであり、このような予期し得ない収入減少や不時の支出増加などに備える必要があります。町政には毎年度多額の資金を必要としますので、貯金は多めに越したことはありませんが、貯金そのものは目的ではありません。財源に余裕のある年度に貯金し、収入が少なくなった時にその貯金で補うようにすることで、収入が変動しても支出水準を大きく変えずに、長期的視野に立った計画的な財政運営を行うことが出来ます。



## まちの将来のため支出改善を継続

4ページ「07経常収支比率の推移」のとおり、町の経常収支比率は2年連続で悪化し、94.4%と高い値を示しました。この比率が100%を超えると、人件費、扶助費、公債費を中心とする経常的経費を、町税や普通交付税などの経常一般財源だけでは賄えなくなり、建設事業や災害対策などの臨時的な支出に対して、弾力的に対応できなくなります。こうした場合には、資金調達手段の1つとして貯金を取り崩し、臨時的に収入を補うこととなります。一時2億円を下回っていた『財政調整基金』をここ数年で積み増し、町の予算規模の1割程度を確保することができましたので、当面は赤字団体に陥るような心配は無いと考えます。

ただ、前述のとおり経常収支比率が一般的に危険ラインの目安とされている90%を大きく超えており、町の財政構造は硬直化している状況です。これまで取り組んできた「滞納整理」や「新たな収入源の発掘」、各種事業の「見直し」や「選択・集中」などの支出改善を今後も継続し、中・長期的な視野に立った計画的な財政運営を行って参ります。